

オイスカ専学ニュース  
近況報告ウクライナ避難民より  
「ご支援有難うございます」

左から マルハリタさん、ヴィーラさん、リアさん、ユリヤさん



日本での自立を目指す  
ウクライナ避難民学生に、  
日本語教育サポートを永く！

2年事業の  
2年目  
になりました

皆様のご支援により、昨年7月より始まった本校のウクライナ避難民受け入れは、昨年12月までに4名を受け入れ、現在2年目（本教育支援事業の最終年）を迎えています。母国の戦禍に終息が見えないなか、彼女たち避難民はウクライナに残された家族や国のことを思いつつ、日本での自立に向けて、そして将来の家族や母国の支援に向けて、懸命に気丈に努力を続けています。これも多くの皆さま方のご支援の賜物であり、厚く感謝申し上げます。

## 私たち、ウクライナ学生より報告です！！



いつも応援していただいて本当にアリガトウゴザイマス！ 私たち学生から報告です。

- ①日本語能力試験で**N2に合格(1名)**しました。次は全員でN1～N3を目指します。
- ②**弓道で初段を取得**できました。本当にうれしいです。
- ③**花屋さんや飲食店などでアルバイト**を皆ガンバッテマス！ 市民の皆さんと触れ合えるし、とても勉強になります。

これからも応援よろしくお願ひします。





# ウクライナ支援チャリティーコンサート開催



ナターシャ・グジーさん 水晶の歌声とバンドウーラの弾き語り



浜松市内の8名の避難民



御礼を述べる本校避難民学生

## ■チャリティーコンサート開催の御礼

チャリティーコンサートを5月19日、浜松市福祉交流センターにて、皆さま方の多大なご支援、ご協力により開催できました。厚く御礼申し上げます。お陰様でコンサートでは、避難民の方々や満員に近いご来場者が、ウクライナの歌姫ナターシャ・グジーさんの澄み渡る歌声と支援に対する思いなど、感動的なひとときを共有できました。

収益金は、本校のウクライナ避難民の学業や生活、就業等のサポートのために大切に活用させていただきます。本当に有難うございました。

## 茶摘み体験

2023年(令和5年)5月13日(土曜日) 中 浜松市 茶摘み体験

### ウクライナ避難民の学生 伝統衣装で 茶摘み体験

ウクライナの首都キーウから浜松市に避難し、オイスカ開発教育専門学校(西区)で日本語などを学んでいるウィーラさんが11日、中区の同校茶園で茶摘み体験をした。日本の文化や自然に触れてほしいと学校が企画した。ウィーラさんはかすりの着物を着た。着物を着た伝統的な茶摘みの衣装に着替えて体験をした。足袋で茶畑に入り、かごいっぱいになるまで茶葉を摘んでいた。茶摘みは、学生らが農業を学ぶための授業の一環で使用している。約1700平方メートルで、日本茶の代表的な品種「やぶきた」を栽培している。ウィーラさんは「初めての体験で楽しかった。緑茶は好きなので、よりおいしく感じると思う」と話した。(柳野介)



浴衣をいただいで感激です。



## 浜松市長 表敬訪問

(15) 県内総合 令和5年(2023年)5月20日(土曜日) 浜松 県庁 乗用 厚木



中野市長(手前)に浜松での生活ぶりや母国への思いを伝える女性たち=浜松市役所

**ウクライナ 侵攻**  
避難女性 支援に感謝  
浜松市長に生活ぶり報告

ウクライナから避難し浜松市西区のオイスカ開発教育専門学校で学ぶ20~30代の女性4人が19日、同市役所を訪れ、中野祐介市長に支援への感謝を伝えた。4人も

同校が学費免除で受け入れたウィーラさん、マルハリタさん、ユリヤさん、リアさんの4人で、昨年7月以降に順次来日し、日本語学習に励んでいる。マルハリタさんは父が兵士で、ユリヤさんは徴収のドネツク州に家族が残る。4人も



不安を抱えながら生活している、積極的に地域の交流会などに参加し、終戦を願う思いを発信している。ウィーラさんは「浜松の皆さんが応援してくれてありがたい」と礼を述べた。その上で、紛争が長期化する中、国際社会の関心低下や支援の先細りを心配していること説明し、「ウクライナで戦争が続いていることを忘れてはいけない」と呼びかけた。

中野市長は「二日早い終戦と平和をお祈りして」と話し、避難の長期化を踏まえた支援の充実を検討する考えを示した。(浜松総局・宮坂武司)